

赤ちゃんの泣きと保育環境・方法に関する研究（1）

— 調査研究の概要 —

○星三和子（東京家政学院筑波女子大学） 汐見稔幸（東京大学大学院） 志村洋子（埼玉大学） 高橋洋代（立教女学院短期大学） 保坂佳一（chs 子育て研究所） 塩崎美穂（東京大学） 松永静子（東京都中野区立白鷺保育園）

I. 目的

最近の乳児保育の急増、保育所経営形態の変化は乳児にとって保育の質の低下を生むという危惧の声が現場から挙がっている。このような情勢下で、乳児保育においてどんな環境や保育形態が望ましいのか、守られるべきかについての議論や提案は急務であろう。しかし保育環境条件や保育方法が乳児に与える影響についてのデータは少なく、研究に基づいた議論は不足していると言わざるを得ない。保育学、教育学、医学、発達心理学、音声学、人類学等の研究者と現場の実践家によって構成された本グループは、実証的な研究を踏まえて、赤ちゃんの保育の理論構築を行い、現在の保育の問題点を分析し、環境条件や保育方法の改善策を提案することを目ざしている。

赤ちゃんの保育において、「泣き」は保育のさまざまな局面や問題点が集約された、キーポイントの場面の一つではないだろうか。保育者にとって乳児の泣きは無視することのできない強い力をもつ。多様な泣きの状態に対する解釈、泣かせることの是非、泣いた時の対応の仕方等の判断を常に迫られる。泣きを引き起こす環境要因、泣きをめぐる保育者と保護者との関係等は保育の質の問題と関わる。しかし、赤ちゃんはどんな時にどのように泣くのか、泣くことは赤ちゃんにとってどんな意味をもつのか、発達と共にどう変化するか、についての実証的研究は少なく、実践者の経験的な直感に頼っている現状である。本研究は、0歳児の泣きの実態を調べ、それが保育室の環境、保育形態、保育者と乳児の関係、保育所や保育者の保育観、等とどのような関係があるのかを、調査研究、ビデオ観察研究、実測研究、実験的研究、文献研究等を通して明らかにすることを目的としている。現在までに質問紙調査と保育者による観察調査の実施を終え、ビデオ観察研究を進行中である。本発表(1)(2)ではこのうち調査研究の一部について報告する。

II. 調査研究

質問紙調査および観察調査について概要を述べる。

1. 調査対象と方法：関東地方を中心とする全国の保育所および家庭内保育約500園に郵送にて調査を依頼した。回答のあった217園（公立保育所76園、私立認

可保育所121園、認証保育所6園、家庭内保育19園、その他3園）を調査対象とした。

2. 調査の構成：調査は次の3つの部分から成る。

調査1. 環境条件調査。

目的：乳児保育室の物理的な環境条件と保育形態の実態把握から、環境条件と泣きの関係を分析する。

調査項目：①園の概要②0歳児保育室の物理的条件（面積、間取り、部屋の使用形態、間仕切り、床材、遮音、採光、温度等）③職員体制（担当制他）

調査方法：質問紙に各園一人が回答。

調査2. 保育者の泣きの概念についての調査。

目的：保育者の泣きについての考えを質問紙調査で調べ、泣きの実態との関係を分析する。

調査項目：①泣きについての考え。②過度の泣きの原因について。③乳児の泣きについての自由記述。

調査方法：質問紙に各園一人が回答。

調査3. 泣きの行動観察記録調査。

目的：乳児の泣きの実態を把握する。

記録方法：0歳児クラスで最も年少の乳児3名の各々につき、ある一日の登園から降園まで時間を追って、主にその子を担当する保育者が泣きの記録をつける。

記録項目：①子どもの基本的な情報（月齢、性別、普段の扱いやすさ）。②泣いた時刻。③泣きの強さ（3段階）④泣きの長さ（3段階）④泣いた時の最初の保育者の対応⑤泣き止まない場合の次の対応⑥泣き止むに至った対応⑦泣いた原因。④-⑥は24の選択肢から、⑦は19の選択肢から選んで記録する。この他に、記録をつける便宜のために保育日誌用の別紙を用意し、自由に記録ができるようにした。

III. 調査2の結果と分析

本報告では上記のうち、調査2の保育者のもつ泣きの概念についての質問紙調査について報告する。

(1) 泣きについての考え。おもに6ヶ月以前の0歳児の泣きについて、予め挙げた言説に同意するか否かの質問に対する4件法の回答結果を表1に示す。泣くことは健康や自己主張の訓練として望ましいことではあるが、苦痛や不快の表れとして気になることで、どちらかといえば泣かせないような保育をしたいという、やや矛盾し

た回答が見られた。泣いたらすぐ対応して泣き止ませることが大事で、それが大人との信頼関係の基礎になるという答えが非常に多かった。また泣かせるのは保育士の技術の未熟さによるのではないと考えている。

(2) よく泣く子、なかなか泣き止まない子の原因についての質問に対する回答(表2)では、原因を乳児自身の気質、性格や身体に求める回答が多い。一方、保育者、保育室、親に原因を求めることは20%台に留まっている。また74%の人が泣きの原因を掴むことができるとも考えている。

(3) 泣きに関する意見。122人の自由記述回答があった。泣きとは何かについては、43人の回答のうち、のべ23人が泣きは「意思表示」「ことばの代わり」「サイン」等自己表現の方法であると答え、のべ31人は「要求の訴え」「大人に伝える」等大人とのコミュニケーションを図る手段であると述べた。泣きの原因への言及(31人)では、「不快」、年少児では睡眠、排泄、空腹等の「生理的要求」、より年長児は「甘え」が多かった。泣きへの対応については、子どもの要求を「受け止める」「応える」という回答が大半であった。受け止めるとは、「要求を叶える」ことだという回答が多いが、「言葉で返す」つまり必ずしも要求を叶えないが意図を共感的に理解して伝える、という答えもあった。泣かせることの是非については、「思い切り泣かせることも必要」「少しの間泣かせることもある」「先回りして泣かせないことはよくない」という意見がある一方で、「泣かせることより気持ちよく生活できる手立てを考えたい」「要求を満足させ快適に過ごせるような配慮によって泣かない生活をさせたい」という意見もあった。この泣かせる、泣かせないの考えの間で、保育者は保育条件の問題を感じているようである。また親との考えとのずれや親への育児支援の問題も挙げられている。乳児一人一人との安定した関係を図ることのできる保育者の人数、担当制等の職務体制、職員間の連携、親との連携のもとでは、泣きは大人と子どもを結ぶコミュニケーションの有効な手段となり得るが、長時間保育、日中保育者の入れ替わりの多い保育室の環境等は無用な泣きを増やすということであろうか。

(4) 今後の課題と発展。以上のように、泣きは乳児の意図を保育者が汲み取り応答するための重要な行動であり、保育者と乳児をつなぐコミュニケーションの手段として保育者は捉えている。このような考えは、次のような検証点を提起していると思われる。これらを調査3の分析やビデオ観察で深めていきたい。

① 実際に保育者は乳児の意図を正しく理解し、応え

る対応をしているか。またそれが可能である保育条件であるかどうか、またそのような保育者研修がなされているか、という問題。泣きは乳児が意図を表す方法であっても、意図が正しく大人に理解されれば泣くことは少なくなる、というパラドックスから、「最適な泣き」条件はあるのか。②泣きで表される乳児の意図や要求を理解することと、それを叶えることは別である。どんなに年少児でも要求をすべて叶えることが望ましいのかどうか、信頼関係の基礎になるのかどうかは自明のことではなく、検証の余地のあるところであろう。この意味で、「応える」ことの意味の問い返しが必要であろう。③泣きによらない自己表現や要求にも保育者は同様に応答しているのか、あるいは泣きは特に牽引力が強いので保育者の応答が多いのか。保育の条件が劣悪になる程、楽しさの表現より不快による泣きによって乳児と保育者が繋がるということはないだろうか。

表1. 泣きについての考えに同意するか。(上段実数、下段%)

	そう思う	ややそう思う	余り思わない	全く思わない	合計
「赤ちゃんが泣くのは、気にする必要のない普通のことである」	26 12.0	47 21.7	62 28.6	82 37.8	217
「泣くことは、健康や自己主張の訓練として望ましいことである」	73 33.6	71 32.7	64 29.5	9 4.1	217
「泣くのは苦痛や不快の表れなので、すぐに対応して泣き止ませるべきである」	85 39.2	91 41.9	35 16.1	4 1.8	217
「赤ちゃんが要求の表現として泣いた時は、すぐ要求に応じてあげべきである」	139 64.1	69 31.8	8 3.7	1 0.5	217
「赤ちゃんを泣かせるのは、保育の技術が未熟だからである」	6 2.8	39 18.0	124 57.1	48 22.1	217
「赤ちゃんをできるだけ泣かせないような保育をしたい」	57 26.1	76 34.9	67 30.7	16 7.3	218
「赤ちゃんの泣きに応えることは、将来の大人との信頼関係の基礎になる」	178 82.0	27 12.4	11 5.1	1 0.5	217

表2. よく泣く子、泣き止まない子の原因(上段実数、下段%)

	YES	NO	どちらでもない	計
赤ちゃんの気質や性格の表れだ	138 63.6	39 18.0	40 18.4	217
赤ちゃんが健康で元気だからだ	41 19.0	131 60.6	42 19.4	216
赤ちゃんの要求をうけとめられない保育者側の問題だ	54 25.0	109 50.5	52 24.1	216
家庭での親の関わりがうまくないからだ	46 21.3	92 42.6	78 36.1	216
保育室の環境の問題だ	50 23.0	140 64.5	27 12.4	217
病気や身体的なことが原因だ	99 45.8	49 22.7	67 31.0	216
原因はよくつかめないことが多いものだ	33 15.3	158 73.5	24 11.2	215